

シーン3 満員電車で…

「…えっ、何か…触って…っ!?!? ち、痴漢!?!? やめっ…っ!?!?」

「…このっ、もうっ、何? こんなときに、通知が…あっ…」

「戦闘員…こんなところで!?!? まさか…」

「っく、説明は省略でいいってこんなところで…確かにどこでも通知がきたら…その、うう、逆らえない…なんてこと考えるの!?!?」

「オプションで視姦趣向付与って、こんな周りに人がいるところで…いやっ体が勝手に熱く…はあ、ふあっ」

「ほんとに不潔なっ…おしりっに手をっ…き、気持ち悪いわよ…嫌に決まってるでしょ…このままだと、周りにバレて大変に? どうでもいいとか言いつつ、」

「アナタがそんなこと、気にしてるなんてね…くっ…はあ、はあ…んあっ…こんな、不潔なことに、変身を使いたくない、けど…くっ…んんっ…」

「変な噂がたっても、困るし…くっ…し、しかたないわね…」

「…機槍天回、龍槍神機、くっ、ああっ…んっ♡ フロスト・ジーン、出撃い…っ!」

「はあ…はあ…くうっ…んっ…はあ、はあ…ふう…」

「認識阻害機能を最大にしたわ。これで、満足？　こんなところで、痴漢プレイをさせるなんて…本当に、最低…くっ…んっ…はあ、はあ、はあ…催眠洗脳さえ、掛かってなかったら…こんなこと絶対にさせない、のにいつ…んっ」

「あっ…あうっ…それでっ…どう、する気？　このまま、ずっと痴漢行為を続ける、の？
…変態」

「あっ…いやっ…あ、アナタっ…こんなに人が居るところで、何で…っ！？　そんなもの、早く仕舞いなさいっ…くっ、ううっ…なんでそんなに大きくしてるのよお…くっ…」

「度の過ぎた変態だとは思っていたけど…まさかそこまでとは…くっ、ああ…うっ、んんっ！　はあはあ、はあはあ、いつもより指の動きがわかって…私、変態にされちゃってる…」

「…はい、分かりました…私の手で、アナタのチンポ、シコシコさせて、いただきますね…」

「くっ…ううっ…はあ、はあ、はあ…ううっ…すごく固くてっ、くっ、んんっ…熱くて、脈、打ってる…はあはあ、はあはあ、んっ、あっ、あうっ…んんっ！」

「あっ、あっ、あっ、そこっ、ダメっ…んんっ！　今っ、そんなところっ、触ったらっ、んあっ！　くっ、ううっ…こ、声え…我慢できなくなるからあっ…ひっぐっ、んんっ！　はあはあ」

「やめて…うっぐっ、おまんこ、指でイジイジ、しないでっ…んっ、あっ、あうっ、ああんっ！はあはあ、んっ、んあっ、うっくっ、んんっ♡ んあっ、あっ、あう、あんっ！」

「ダメっ、ダメっ…んっぐっ、ううっ！ あっ、ああっ！ んあっ、ああっ…くっ、ううっ！♡…くっ、うう…いやあっ…んんっ！ と、隣でっ…学校の友達、喋ってるのにつ…」

「変身スーツの認識障害機能を最大にしてるからっ…ふうっ…聞こえても、も、問題ないけどお…こんなことっ」

「あっ、ダメっ、ダメえっ！♡ はあはあ、今っ、おっぱいっ、触られるのっ…ダメだってばあっ！♡ ひぐうっ！♡ あっ♡ あっ♡ あっ♡ んんっ！♡ おまんことっ、おっぱいっ、同時にはっ…」

「んんううっ！♡ 無理っ、無理いっ！♡ 声っ、我慢できない、からああああっ…っ！♡ ああっ！ なんでっ、おちんちん、こんなに固くしてるのよっ！」

「変態っ！ 不潔っ！ くうっ！ ありえないっ…うっぐっ！♡ アナタみたいな人っ、絶対…許さないんだからああああっ…！♡♡」

「えっ！？ いやっ、もう出すってっ、そんなっ…ダメっ、こんなところで射精するなんてっ！」

「ああっ！ ダメっ、ダメだってばっ！ くっ！ ああっ！ 手がっ、止まらないっ！」

「あつ、ああつ、うっぐつ、んんうううっ!」

「はあはあ、はあはあ…アナタ…ホントに、何を考えて…えっ?」

「…精液を使って、オナニー? ですか? ……はあ、はあ……友達がいる横で……こんな電車の中で……こつちを向いてる人もいるのに……あ、あ」

「体が、勝手に…動いてっ…んんっ! あつ、ああっ!♡」

「くっ! はあはあ、んっ、んんうっ♡ あつ、あつ、ああっ♡ 何でっ、私の指っ…くっさい精子でどろどろの指で……パンツの奥に、あ、あ……匂い取れなくなっちゃっ」

「はあはあ、はあはあ、ううっ…はあ、はあ、はあ…ああ、ダメっ、指い、止まらなくなっ、るうっ!♡」

「んんっ! んっ、んあっ! あうっ♡ んっ、ああっ…っ!？」

「…へ? あつ、だ、大丈夫…大丈夫、だから…くっ、ううっ…んっ、んんうっ!♡ ただ、ちょっと、体調悪い、だけ、だからあああっ♡ んっ、んぐっ、あつ、あうっ!♡」

「はあはあ、はあはあ、んあっ♡ ああっ…わ、私のことは、気にしないで、大丈夫うっ!♡ んっ、ぐうっ、ううっ…はあ、はあ、はあ…なに、これえ…んんっ…絶対おかし、おかしいよお…っ!♡」

「友達にオナニー見られてるのにつ、止められないっ、のおおおうっ!♡」

「見られても大丈夫だけど……こんな不潔なこと……オナニー見られてるのに……ああ、見ないで……でもでも」

「私、正義の味方なのに……気持ちよくなっちゃってる……友達の視線でオナニーして……いけないのに……ああ、あ、あ、あ」

「指止まらない……くうっ♡ん、んっ♡……体熱くて、顔真っ赤にして……見られてるのに……こんなっ♡」

「はあ、はあ、はあ……んあっ♡くっ、ううっ、あっ、あっ、あぁっ！♡」

「こんなにつ、おっぱいっ♡もみもみ、しながらあっ♡んんうっ♡あうっ♡あっ♡あっ♡あうんっ！♡乳首いっ♡こねくり回してっ♡てもおっ♡全然、バレないのおっ♡」

「あっ、あうっ、んんんっ！♡気持ちいいのっ♡止まんないっ、止まんないよおっ♡ひうっ♡んんうっ！♡不潔、不潔よ♡せーしの匂いあそこにこすりつけて、あっ♡あっ、あぁっ♡絶対人前でしゃいけない顔さらして……あっぐっ♡うううんっ！♡」

「うあっ！♡あぁあっ！！♡ひっ！？あっ、あぁっ……大丈夫っ、大丈夫だからっ、んんっ♡はあはあはあ……んっ♡あぁっ……♡顔が、赤いっ、のはあっ……んんっ♡ちょっと風邪気味、なのかも？んあっ♡」

「はあはあ、はあはあ、えへへへ 学園、着いたら…はあはあ、はあはあ…保健室いかないと…んんっ♡」

「ああ、ごめん、ごめんねえ…♡ んんっ♡ 心配、かけちゃってる、よね？ はあはあ、ふう、ふう、ふうう…♡ わ、私は大丈夫、大丈夫だから…んっ♡ ああっ♡」

「…うつくっ♡ そんなに気にしなっ、くてえっ…いいからあああっ…んんんうっ！♡」

「ううっ♡ ああっ♡ も、もうっ、ダメっ♡ ダメえっ♡ …いくっ♡ …いつ、ちゃううう…っ♡」

「見られながらっ、私っ…伊っちゃうっ、のおおおおお…んんうっ！」

「んんうあああああっっ！！！！♡♡♡」

「あっ♡ あっ♡ ああっ…♡ あっぐっ♡ イっちゃった…♡ イっちゃたあ…ひぐっ

♡ 友達の前でっ…こんなに、醜態を晒して…くっ♡」

「き、気持ちよく、なる、なんて…あり、えない…んあ…♡ はあはあ、はあはあ、ああ

♡」

「ふっぐうっ！！♡ 入ってきたあ！？ え、え！？ おちんぽっ、ゴムつけたとかそう

いう問題じゃ…あああっ！♡ ダメっ♡ ダメえっ♡ イったっ♡ イったばかりっ♡

だからあああっ！♡ うっぐっ♡ あっ！♡ あうっ♡」

「んあっ♡ あっ♡ ああああ！♡ な、中あっ♡ はあはあ、んんっ！♡」

「おチンポでっ♡ 突いちゃっ♡ ダメえっ！♡ うっぐっ♡ んんっ、んんあっ！♡ お
っぐっ♡ ううっ！♡ ああっ！♡ あうっ！♡ んんっ！ んんんうあっ！♡」

「おかしいっ…絶対っ、変っ！ はあはあ、んんあっ！♡ セックスうっ、してるところっ
…ひうっ♡ 見られてるの…んんんああっ！…！♡」

「恥ずかしくてっ、死にそうなの…！♡ 体がっ、感じすぎてっ…んんうっ！ あっ、
ああっ！♡ おかしくっ、なるっ…っ！♡ こんなっ、ありえないいいいいっ…！！
♡♡」

「あっ！♡ あっ！♡ あああっ！♡ 絶対っ、催眠のっ、せいっ、なのおっ！ あああ
っ！♡ 私がっ、アナタの、おチンポっ、なんかにっ…ふぐううっ♡ んんっ！♡」

「あっ♡ あっ♡ あっ♡ …くっ、屈する訳なんてっ、ないんっ、だからあああっ！♡」

「うぐっ！ んんっ！♡ あっ！♡ あっ！♡ あっ！♡ ああんっ！♡ あん
っ！♡ あん、あんっ！♡ はあはあ、はあはあ、んぐっ♡ んんんんんっ！…！♡♡」

「ダメっ…もうっ、ダメっ…んんっ♡ 気持ちいいのっ♡ 催眠のせいだから♡ きもち、
よすぎてっ…あうっ♡ またっ、イっちゃっ、うううっ…♡」

「あっ、いやっ、すごいっ、見られてるのっ♡ ダメっ、止めてっ♡ みんなっ、見てるの
にっ♡ 私っ、またあっ♡ イくっ♡ イっちゃうっ！♡ もうっ、無理っ♡」

「あっ♡ あゝ ああああっ！♡♡ んゝ うああああああああああああああああああ

「♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡」

「あっ…♡ あっ…♡ ああっ…♡ うぐっ…んんっ♡ はあっ、はあっ、はあっ、んん
っ♡♡くっ…う…はあはあ、はあはあ、んっ♡」

「この度はあ♡ ご利用、ありがとうございます♡ はあはあ、はあはあ、んあ…♡
またの、ご利用…♡ 心より、お待ちしております…♡ んひっ♡ あっ♡ ああ…♡」

「はあ、はあ、はあ…うう…」

「こんなこと、繰り返しても…んっ、くっ♡ はあ、はあ、はあ…♡ 心までは、絶対に、屈
したり、しないんだからあ…♡ はあ、はあ、はあ、ああ…♡」